

ボデー関係

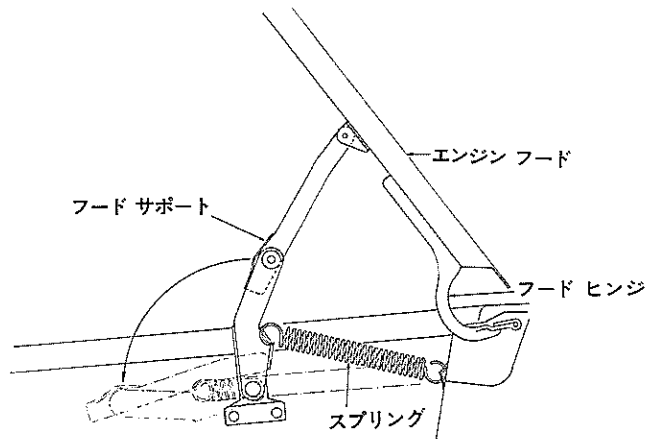
ボデーの基本構造は従来と同じにして、フロント ビュー、リヤ ビューを一新し、斬新で豪華な意匠にしました。

GL車およびGSL車は、ホイール オープニング モールおよびボデーのサイド モールを廃止してストライプ（細線塗装）を施しました。更にR T62系車両のドア チャンネルはダークグレーの塗色を施し流行の先端を行くデザインにしました。

1. エンジン フード

エンジン フードは中央部のリブ形状を1山から2山にデザイン変更し、剛性を高める一方フード サポートの構造を変更し、スプリングの力でオープン ストップさせるワン モーション構造を採用しました。

従来は、フード サポートのオープン ストップパのロックを外す操作を必要としましたが、今回の変更によりその操作が不要となり操作性が著しく向上しました。



フード ヒンジ図

G6529

2. ドア ウエザストリップ

ハード トップ系のドア ウインドおよびクォータ ウインド ガラスのアウタ側ウエザストリップをオシレット プルーフ（毛状ウエザストリップ）からクリーナ ゴム（ゴム板状ウエザストリップ）に変更して雨もれ防止効果を向上しました。

3. ドア

ハードトップ系車両のドア インサイド ロック ボタンの位置を160mm前方に移動し操作性を向上しました。

4. フロア パン

2分割プロペラ シャフト センタ サポート ベアリングを10mm上げる変更にともない、フロアのトンネル部を大きくとり プロペラ シャフトと 同部にある配管との間隙を保つようにしました。またエンジン出力の向上にともない、ディフアレンシャル ダンパ ストツパ部のトンネル部を6mm深くし、ストツパの形状を一部変更し、デフキャリアとストツパとの間隙に余裕をもたせ急発進時のウィンドアップおよび悪路走行時等の干渉を防止しました。

5. 外装 関係

ラジエータ グリルはセダン系とハード トップ系の2種類に大別され、力強く、豪華で斬新なデザインにいたしました。

マーク類、リヤ ベンチレータ ルーバ等の意匠を一新し、豪華にしました。

6. 内装 関係

インストルメント パネル部の塗色をスタンダード、デラックス系はダーク グレー メタリックに、GL, GSL, GSS関係の塗色はシルバー グレー メタリックに変更しました。

ヒータ部の ベンチレーション ルーバの風向調整方式を上下調整と横方向調整を左右独立して行なえる方式を採用し、調整の便宜性を計りました。

ドア トリムの意匠を変更し豪華さを増しています。

シ ー ト

シートはフロア トンネル部の変更にともない、同部付近の形状を変更しました。またシートのカバー意匠を一新して豪華さを増しています。リヤ シート クッションはSバネからウレタン フォームに変更して居住性を向上しました。

セパレート シートはシート クッション側のリクライニング アジャスタ取付けボルトおよびシート、ヒンジ ピンを8mmから10mmに変更してシート バックの取付剛性をあげ、更にリクライニング アジャスタとシートバックの取付ボルト間の間隙を90mmから120mmに広くとり強度を向上し安全性を高めました。

ヘッド レストは、頭部受圧面積の大きいRT80系と同じものを使用し安全性を高めました。

シート ベルト

シート ベルトはJIS規格を十分上まわる性能をもつ安全性、信頼性の優れたものを採用し、バックルはレバー式のロック解除機構から、プッシュ ボタン式のロック解除機構に変更し、操作性を向上しました。

ボ デ ー

ハード トップ系のフロント シート ショルダ ベルト アンカの位置をルーフ サイド レールに移動し、ベルト装着性を向上しました。

またコート フックの形状を変更しショルダ ベルト ハンガとしても使用できるようにしました。

コンソール ボックス

基本は従来と同じですがコンソール ボックス最後部にはシート ベルトのバックルを入れるスペースを作り、小物入れ部にはカバーを設けました。

リヤ ビュー インサイド ミラー

RT75-M型車には防眩式の脱落式ミラーを採用しました。

7. 塗 色

マークⅡの塗色はスノー レイク ホワイト、ブルー ジルコン メタリック、ホワイトマーブルおよびブルー アイオライト メタリックを追加し、巻末資料の塗色一覧表の塗色構成にしました。